

## 令和4年度学校運営自己評価結果・学校関係者評価委員意見および今後の課題

評価尺度:5 よい 4 ややよい 3 普通 2 やや不十分 1 不十分

### ①学校経営【平均3.6】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>教員各々が、組織ミッションと担当業務を関連させ、業務目標および目標達成のための具体的取組を立案し自己評価（上期・下期・総括）に取り組んだ。</p> <p>学生による授業評価や学校評価、教員による学校運営自己評価を実施した。また、秋に学校関係者評価委員会を開催し前年度学校評価について外部委員と意見交換できた。</p> <p>今までにはなかった教育内容を取り入れ、本校独自のカリキュラムを構築し運用1年目を終えた。運用と並行して、翌令和5年度にむけ組織的に検討を継続した（新カリキュラム検討分科会・全体会）。</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養：ハンセン病やインターネットの人権、異文化理解、こころの健康などを設定</li> <li>・地域・在宅看護論実習Ⅰ：地域で展開される様々な支援（母子、障害者等）や一次予防を観点に職域での看護などを設定</li> </ul> <p>教務会議や定時（11時半）情報共有において、学校運営に関する事項を意見交換したり、日々生じる課題への対応や情報の共有を図った。定時（11時半）情報共有は、教員間のコミュニケーションや業務の協力依頼の場にもなっている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染対策や分散・遠隔授業、補講、学内実習等に学生・教職員一丸となって取り組んだ。クラスターの発生もなく学校運営でき、学生は単位修得できた。</p>	<p>令和6年度からミッション・組織目標をふまえた単年度の目標を教職員と検討し策定、9月末に中間評価を行う。</p> <p>今後も学校評価を継続していくが、結果を次年度の学校運営に即反映できるよう学校運営自己評価および学校関係者評価委員会開催を現在より前倒しする。</p> <p>新しいカリキュラムを特色ある学校づくりにつなげていくために、運用したカリキュラムを評価し、教育内容を精練していく必要がある。独自のカリキュラムの精練に取り組んだことはよい。</p> <p>コロナ禍、クラスターの発生もなく学校運営できたのは、学生・教員の感染対策の成果であった。</p>

### ②教育課程・教育活動【平均3.9】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>教育理念や教育目標、期待される卒業生像を見直し、独自性のある新たな教育内容を盛り込んだカリキュラムの運用が開始した。旧カリキュラムと混在した移行期間であり、前例のない中、学習効果のある教授順序を考慮しながらの時間割作成は難しかったが、講師との日程調整について教員間で情報共有・意見交換しながら検討を進めた。</p> <p>翌年の新しい教育内容の教授にむけ、専任教員で構成するカリキュラム検討分科会を機能させ、全体会で意見交換・検討した。教授内容や方法、評価表の作成等の準備ができた。また、実習施設を新規開拓した。</p> <p>学生による授業評価結果や教授活動をとおして感じた反省・課題をふまえ、専任教員それぞれが12月に翌年度のシラバスについて熟考、見直した。見直した内容については教務会議で情報共有した。また、年度末に1年間の教育についてふりかえり次年度に反映させよりよい教育にむけ努力している。</p> <p>製本されたシラバスおよび実習要項を学生に配布し、いつでも授業について確認できる環境である。</p> <p>コロナ禍での教育活動は制約があったが、分散授業や2班体制での教授、ICTを活用した臨地からのオリエンテーション等、専任教員それぞれが感染対策をふまえ教育方法を工夫し実践した。</p>	<p>卒業時の到達状況の分析はカリキュラム評価の側面からも今後取り組むべき課題である。令和6年度は、本校の期待される卒業生像と経済産業省が提示した社会人基礎力に基づいた学生自己評価ツールを作成し卒業前の学生にふりかえってもらう。</p> <p>令和6年度は新カリキュラム移行最終年であり、年度末に教員間で3年間のふりかえり・効果検証を実施したい。</p> <p>技術の到達度、医療安全対策等が意識されたカリキュラムについては、科目「医療安全」（令和5年度運用（2年生））、科目「看護の統合と実践」（令和6年度運用（3年生））を構築しており検討を継続する。</p>

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み								
<p>かねてからの課題である卒業時の到達状況の分析には取り組めていない。</p> <p>翌月の時間割を1カ月前に配布することはできないが、学生が早く知りたい認定試験や行事の日程についてホワイトボードに掲載し情報提供した。</p> <p>教員相互の授業参観および授業研究については計画立案・実施に至っていないが、チューター制が導入されている科目については、担当教員間で意見や改善点を話し合い演習に取り組んだ。看護技術試験が設定された単元については、教務会議で教授内容や技術試験の評価ポイント等を意見交換した。</p> <p>学生の主体的な実習や安全のために、実習の進め方や実習記録の管理、事故防止対策、倫理綱領等（実習要項）を示している他、オリエンテーションでの指導を継続している。実習病院の指導や学校との連携の体制は確立している。</p> <p>専任教員の講義・演習・実習指導の質はよく、学生に肯定的に受け入れられていることが、学生による授業評価結果からうかがえた。年度末に、授業評価結果をもとに自分の教授した科目全般をふりかえることが定着し、翌年度の教育活動に反映してきた成果である。</p>	<p>現在、学生に提供している教育の質を落とすことなく、専任教員一同努力を継続する。</p> <p>新カリキュラムへの移行を機に、学校年間スケジュールを見直し、3月後半（年度末）に余裕をもって1年のふりかえりができるようにする。</p> <p>専任教員がひとりひとりが新しい試みにチャレンジできる環境も整えたい。</p> <p>直近の卒業生による講義があってもよい。</p> <p style="text-align: center;"><b>【学生による授業評価および学校評価結果】</b></p> <table border="1" data-bbox="960 611 1275 797"> <tr> <td>講義</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>学校評価</td> <td>4.3</td> </tr> </table>	講義	4.6	演習	4.6	実習	4.6	学校評価	4.3
講義	4.6								
演習	4.6								
実習	4.6								
学校評価	4.3								

### ③入学・卒業対策【平均4.0】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み																																
<p>学校PR、国家試験対策、就職支援等は、質・量を維持しながら従来どおりの方策を継続した。新たに取り組んだのは、学校施設紹介動画のホームページへのアップ、業者が提供しているオンライン国家試験対策の受講である。</p> <p>オープンキャンパスは、前年度のアンケート結果に基づき、7月の進路決定の懇談までに開催できた。</p> <p>令和4年度入学生は41名で定員充足率100%という目標は達成できた。平成29年度入試までは100人以上の受験者数を維持していたが、以降減少～横ばい傾向。</p> <p>令和4年2月に実施された看護師国家試験では、本校出願者全員が合格した。本校の国家試験合格率は全国と比較しても高い水準を維持できており、学生、専任教員の努力の成果である。</p> <p>卒業生の県内就職率は年度によりばらつきがあり、令和4年度卒業生は81%（前年度91%）と例年に比べて低かった。</p> <p><b>【受験者数・入学者数の年次推移】</b></p> <table border="1" data-bbox="172 1675 501 1848"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>受験者数</th> <th>入学者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>89</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>91</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>81</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table>	年度	受験者数	入学者数	R2	89	35	R3	91	39	R4	81	41	<p>受験者の減少を見据え、今後は従来のPR活動に加え、業者開催の進学ガイダンスへの参加も検討する。</p> <p>県内西部や兵庫県北部の高等学校へのPRを検討する。</p> <p>ポスターだけでなく、高校生個々が持ち帰ることのできるA4版チラシを作成し高校に配架を依頼する。</p> <p>卒業前に卒業後のキャリアプランを考える機会があるとよい。</p> <p>新たに専任教員による国家試験対策を冬期にスケジュールし、国家試験対策に教員一丸となって取り組む。</p> <p>母校訪問という形で卒業生が学校に訪問し、先輩として国家試験や就職について情報提供したり、在校生と交流する場があってもよい。</p> <p style="text-align: center;"><b>【国家試験合格率の推移】</b></p> <table border="1" data-bbox="612 1720 1388 1877"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>100</td> <td>90.4</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>97.5</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>100</td> <td>90.8</td> </tr> </tbody> </table>	年	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率	R3	37	37	100	90.4	R4	40	39	97.5	91.3	R5	33	33	100	90.8
年度	受験者数	入学者数																															
R2	89	35																															
R3	91	39																															
R4	81	41																															
年	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率																													
R3	37	37	100	90.4																													
R4	40	39	97.5	91.3																													
R5	33	33	100	90.8																													

#### ④学生生活への支援【平均3.7】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>悩み・相談・要望がある学生に対しては、学年ガイダンスと学年主任が連携し学生を支援する体制を整えている。学生の希望があれば、カウンセリングに繋いでいる。組織として検討が必要な場合は、意見集約し判断するプロセスができている。</p> <p>学生・保護者対応については、専任教員は学生や保護者の思い・希望をよく聴き、説明責任を果たしながら、状況に応じ最善の選択ができるよう相談にのっている。</p> <p>就職については、特別講義やハローワークとの連携を継続しているが、求人情報の提供や心理面での支援を行った。</p> <p>卒業生に対する支援窓口はなく、相談があれば対応している。</p> <p>学内で自治会およびサークル活動を行うときは、学生が教室等の使用許可を求めれば使用できるルールとなっている。コロナ禍でサークル活動が制限され、土日にリモート活動した際、学校施設や機器の使用を支援した。</p>	<p>3年生の学校評価（学生支援に対する評価）が他学年と比較して低いのでその要因について分析が必要と思われる。</p> <p>メンタルヘルスと卒業生への支援を今後も継続していただきたい。スクールカウンセラーの利用促進を図りたい。</p> <p>“こころの健康とカウンセリング”について、次年度も科目「教養」の授業計画に盛り込む等、今後も従来どおりの対応を継続する。</p>

#### ⑤管理運営・財政【平均3.7】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>予算削減、電気料金・物価上昇の中、教育に必要な部分には躊躇せず予算執行した。授業で使用する消耗品等は年間使用見込を立案した上で計画的に購入した。</p> <p>計画的に看護実習室の電動ベッドや学生の更衣ロッカーを購入している。電動ベッドの整備は令和4年度をもって終了した。</p> <p>個人情報に関する業務は、県の業務適正化（内部統制）の取り組みに準じ実施した。重要度の高いリスクと未然防止策を意識し、適時チェックリストを活用した。</p> <p>個人情報保護に関する学生への教育は徹底しており、講義、実習オリエンテーション等複数回にわたり指導した。</p> <p>防災訓練を4月に実施した。 消防計画については、校舎改修や教職員の異動等状況が変化しているが5年以上見直しできていない。</p> <p>面談や日常の会話から学年ガイダンスが学生の要望を聴いている。 図書室に設置している意見箱「つぶやきボックス」に意見が入ることがほとんどない。 1件：カップ麺とパンの自動販売機がほしい</p>	<p>限られた予算の中で計画的に運営できている。今後のアフターコロナにおける教員の育成に関する予算の配分についても教員研修計画に沿って考えていく必要がある。</p> <p>科目「看護の統合と実践」の演習にむけ、教材備品を整備する他、学生の更衣ロッカーを計画に沿って購入する。また、専任教員1人につきIpad（電子テキスト用）1台整備する。</p> <p>感染対策や防災対策・訓練といった危機管理や教育DXの推進等の改革は重要である。早急に消防計画を策定し届け出る。</p>

### ⑥施設設備【平均3.6】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>建築から48年経過、学校施設が老朽化しており、改修・修繕の計画を立てた。 安全な環境で学習できるように定期的に職場巡視した。 令和4年度実施： 屋外階段防錆工事 外壁・内壁雨漏り補修 エアコンサーミスタ修繕</p> <p>令和4年度に情報科学室のパソコン一式リース契約した。パソコンの起動が遅い、頻りに発生するトラブルは解消し、学生から「使いやすくなった」と好評だった。また、第5次改正カリキュラム開始にむけ示された基礎看護教育へのICT導入のため、電子黒板の購入、電子テキスト導入の検討を行った。電子黒板を活用している教員は、まだ限定している。</p> <p>令和4年度も新刊書等を購入した。 図書：5198冊 雑誌：22種類（年度末時点）</p> <p>実習室のベッドを計画的に電動ベッドに更新してきたが、電源等の要因ですべて電動ベッドにできない。</p>	<p>築48年になる校舎については、中長期の営繕計画でメンテナンスを行っていく。今後3カ年の計画は次のとおりである。 屋上防水改修工事・外壁改修工事・建具改修工事</p> <p>エアコン室外機等、修繕を要する箇所もあり、修繕費要求を継続する。</p> <p>新カリキュラムに移行し、令和6年度に運用3年目完全移行となる。科目「看護の統合と実践」では、“卒業前の看護技術到達度の評価”が教育内容に入っており、モデル人形等を整備していく。</p> <p>情報科学室のサーバーの更新を計画する。</p> <p>コロナ禍で分散昼食となっているが、状況を見ながら解除しシミュレーション室を本来の目的に沿って整備したい。実習生が実習中に準備負担なく、看護技術の練習ができる環境とする。</p> <p>ICT機器や電子テキストの効果的な活用について勉強する必要がある。</p>

### ⑦教職員の育成【平均3.0】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>令和4年度は、職場内人権研修、不当要求研修を実施、全員が参加した。一方、コロナによる行動規制があり、県外で開催される学会やセミナーへの参加が企画できなかった。また、臨床看護研修や専任教員による研究調査活動も実施していない。</p>	<p>看護師養成校が抱えている課題（例えばアカデミックハラスメント、保護者対応等）について職場内研修を企画する。</p> <p>予算を要求し専任教員の県外での学会・セミナーへの参加を計画立案していく。外部講師による研修企画や研修参加を期待する。</p> <p>令和6年度は、専任教員全員参加の授業研究を実施、意見交換し、教授技術の研鑽に努めたい。</p> <p>評価得点が低い傾向があり対策を講じてほしい。また、学生や保護者からの要求が多岐にわたり複雑化するので、教員の心のケアにも注力ください。</p>

### ⑧広報・地域活動【平均3.0】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>コロナ感染対策のため、広報および地域貢献活動が制限された。そのような中、看護職職能団体の委員会活動や県委託事業（実習指導者養成講習会）に協力した。 また、高校からの依頼で在校生を派遣し、看護の魅力の後輩に伝えてもらった。</p> <p>ホームページについては、適時、情報や学校生活のページを更新した。一方、ホームページ全体的大幅な見直しは、その必要性を感じながらもできていない。</p>	<p>コロナ禍で中止していた学校行事の報道機関への情報提供を再開し、積極的な取材協力を行う。</p> <p>ホームページをもっと充実させていかないといけない。大幅なりリニューアルのための計画策定が必要である。</p> <p>学校広報としては、今後はSNSの活用を考えていくことが必要である。SNSを通じての情報発信は有効と思われる。</p> <p>地域貢献・ボランティア活動参加により社会の一員として自覚が持てる場づくりは必要である。学生だけでなく、専任教員も地域のボランティア活動に参加していきたい。</p>